

京田辺市農業委員会

澤田 康夫会長 (61)



農業委員会の委員が「地域計画」の策定に向けてがんばりたい。

本年度は農振農用地区域の見直しも予定されており、本市農業の未来にとって「守るべき農地」を決める重要な年であり、「地区連絡会議」を各区域で開催し、将来の農地で農業のあり方を話し合う活動に力を入れた。

精華町農業委員会

岩井 三郎会長 (68)



農業委員会の農地利用最適化推進業務の最重点活動として、全地区で「地域懇談会」を実施していきたい。

それぞれの地域で「守るべき農地」と「耕作できない農地」を確認しあうことにより、将来も農業を続けられる方が耕作を継承できる環境を整えて、農地の保全と有効利用の取り組みを進めていきたい。

新会長の抱負

向日市農業委員会

清水 庄吾会長 (64)



向日市では、都市近郊型農業経営を営む農家も多いが、近年は大規模農産物の生産に力を入れている。

向日市では、都市近郊型農業経営を営む農家も多いが、近年は大規模農産物の生産に力を入れている。

地域の支援に取り組みたい

生産性の高い都市近郊型農業経営を営む農家も多いが、近年は大規模農産物の生産に力を入れている。

向日市では、都市近郊型農業経営を営む農家も多いが、近年は大規模農産物の生産に力を入れている。

全地域で「懇談会」を実施

農業委員会の農地利用最適化推進業務の最重点活動として、全地区で「地域懇談会」を実施していきたい。

それぞれの地域で「守るべき農地」と「耕作できない農地」を確認しあうことにより、将来も農業を続けられる方が耕作を継承できる環境を整えて、農地の保全と有効利用の取り組みを進めていきたい。

第25期 新体制スタート

19農委会で委員440人(農業委員275人、推進委員165人)誕生

第25期 農業委員会の新体制ー改選19市町村ー

委員会名	会長名	委員数(計)		
		農業委員	推進委員	
向日市	(新) 清水 庄吾	16	16	—
長岡京市	(新) 小山 泰弘	17	14	3
大山崎町	(新) 垣内 兵次	7	7	—
宇治市	(現) 吉田 利一	18	14	4
城陽市	(現) 谷 則男	20	14	6
久御山町	(現) 田中 壽嗣	20	14	6
八幡市	(現) 長村 信幸	22	14	8
京田辺市	(新) 澤田 康夫	25	14	11
宇治田原町	(新) 浅田 豊春	23	14	9
笠置町	(新) 植田 克巳	10	10	—
和束町	(現) 齊藤 正広	18	14	4
精華町	(新) 岩井 三郎	19	14	5
南山城村	(新) 中窪 耕司	19	14	5
亀岡市	(現) 神崎 弥	48	19	29
綾部市	(現) 三和 喜治	36	19	17
舞鶴市	(現) 今田 寿孝	34	19	15
福知山市	(現) 藤田 重行	50	20	30
宮津市	(現) 関野 揚司	24	14	10
伊根町	(現) 小原 澄晴	14	11	3
19委員会 計		440	275	165

<参考>非改選7市町の委員数(2023年8月14日現在)

委員会名	会長名	委員数(計)		
		農業委員	推進委員	
京都市	戸田 秀司	50	21	29
京丹後市	梅田 和男	51	19	32
木津川市	公文代 憲篤	38	19	19
京丹波町	山田 進	41	19	22
井手町	寺島 正直	11	9	2
南丹市	上田 純二	48	19	29
与謝野町	山崎 信之	25	14	11
7委員会 計		264	120	144
26委員会 計		704	395	309

女性委員4人「がんばります」

綾部市農業委員会

綾部市農業委員会では、今年から女性委員が1人増え、初めて4人体制になった。

農業委員会を円滑に運営するため、初総会では、三和喜治会長、鎌部勉武会長、職務代理のほか、運営委員として東部(山家・口上林・中上林



・奥上林)、中部(綾部・中筋・吉美・西八田・東八田)、西部(豊里・物部・志賀郷)の地区代表(各1人)と女性委員の代表を選出した。

女性委員4人は、京都丹の国農協組合長、豊里地区自治会長、右から、福井泰子委員、高橋加給委員、林多嘉子委員、居相雅代委員

連合会長、京都女性の船綾部支部長が推薦した。居相雅代委員は府指導農業士、高橋加給委員は中核的担い手、林多嘉子委員(中立委員)は綾部市男女共同参画審議委員、福井泰子委員は綾部緑茶生産組合女性部長として地域で元気に活動している。綾部市の女性農業者の代表として、女性の声を農業施策に反映させる活動が期待されている。(綾部市農業委員会)

農deきらきら

目の野菜を農園で直売するほか、電話やホームページでも注文を受けて配達している。

最近、日本ミツバチの養蜂も軌道に乗り、町のあるさと納税返礼品として人気を集めている。

桜井さんは「生き物が大好きなので、農業を使わず自然に優しい栽培方法で美味しい野菜を作っていきたい」と明らかに語った。

(精華町農業委員会)

「畑の青空マルシェ」が好評!

精華町乾谷地域で桜農園を営む桜井あゆみさんは、約1畝の休耕地を活用して50種類の野菜を有機栽培(JAS認証取得)し、養蜂との複合経営を行っている。

キャンプ場のインストラクターとして10年間働いた後、8年前に両親と桜農園を立ち上げた。

学研都市の住宅開発で非農家の都市住民が多い立地を活かした「畑の中の青空マルシェ」が好評で、多品目でも注文を受けて配達している。

精華町 桜農園

桜井あゆみさん



桜農園の蜂蜜と野菜を紹介する桜井さん



農業委員を2期務めた西村さん

消費者とつながり農業を盛り上げたい!

大山崎町の農地の大半は市街化区域にあり、町期6年の経験を通して感じるようになりました。

嫁いだことをきっかけ

ていきたいと思っています。(大山崎町農業委員会・西村淳子委員(7月19日退任))



女性委員が
「つないで発信」